



## ウイルス・細菌・真菌図鑑

①～③

北元憲利

2014年・ミネルヴァ書房

定価（本体 2,800 円＋税）

評者 酪農学園大学 教授 浅川満彦

新興・再興感染症の発生など、感染症がより強大になった問題として世界を覆い尽くしている。そのために、市民は自分の身を守るための手段として、まず、病原体の基本的情報が必要とされるようになった。その一環として、たとえば、今回紹介されるような絵本シリーズが刊行されたのであろう。にわかには信じられないが（失礼）、予想以上の好反応から、その続編「もっと知りたい！微生物大図鑑（全3巻）」が2015年以降、刊行されているという。

されど、そう易々と、感染症や病原体のことが世の中に敷衍していくとは思えない。このような書籍を、まず、皆さんのクリニック待合室に常備し、そこを感染症教育の場としてはいかがであろう。第1巻がウイルス、第2巻が細菌、そして第3巻が真菌および原虫について紹介され、各巻本文の分量は巻末索引を含め39頁でまとめられている。各巻内容の概要としては、序（各病原体の「プロフィール」）および各巻3章で構成され、各章は最初に研究史や人との関わり（特に、第2および3巻では日本人研究者にスポットライトをあてている）、次いで病原体の生物・生態・消毒防疫などの情報、最後に各巻約30種の病原体を扱った各論となる。

収載される画は、各病原体に工夫された着色・加工がなされている。想定される読者層を「小学校高学年～中学生」としているが、より幼い子供たちがこれら挿絵を見るだけでも、決して飽きさせないであろう。存外、子供たちは、異界のような、あるいはオドロオドロ的な刺激を求めるモノである。このような、想定外使用でも、安心をして欲しい。典型的な絵本仕様の厚紙が用いられ、かつ表紙もハードカバーなので、仮に少々乱暴に扱われたとしても、長年、耐えられるはずだ。

さて、小っちゃな子たちの中には、画を一瞥しているだけでは満足はしない。次は、クリニックで一緒にいるその父母あるいは兄姉（高校生や大学生）に、分かりやすい説明が求められるであろう。その際、まことに、気の毒なのであるが、一般の大人たちがあまり知らないで、しどろもどろになるかも知れない。だが、まったく心配無用である。その機会に、子あるいは弟妹と一緒に勉強をすれば良いのだから。このシリーズはそのような親子修練の契機となろう。感染症対応は風雲急を告げてはいるが、拙速なものも考えものである。おもだった病原体の性質や感染症の概要が国民の教養となるには、このような楽しく、じっくりとした涵養の場も必要だと考えられる。